

平成28年度 薬学部 FD 研究会報告

古野忠秀（文責）、河村好章、樋 彰、安池修之、脇屋義文、
森田雄二、浦野公彦、小川法子、井上 誠（委員長）

愛知学院大学薬学部 FD 委員会

平成28年度薬学部FD活動としては、研究授業（「薬品物理化学Ⅱ」：小川法子講師、11月24日）、講演会（「女性のキャリアパスについて：「薬剤師であり、消費者である」私の場合」福居篤子先生（株式会社龍角散執行役員）、2月13日）、ワークショップ（第1回「学習者支援に有効な情報共有と連携指導の実践とは ～現行アドバイザー制度の実質化にむけて～」、9月12日；第2回「授業アンケートを教育改善に活用する ～授業改善アンケート実質化にむけて～」、3月13日）を実施した。

研究授業は、「薬学教育における動画コンテンツの有効活用」をテーマに、授業の中に動画コンテンツを組み込み、分かりやすい講義をされている小川講師の「薬品物理化学Ⅱ」にて実施し、多くの教員が参加した。その後の意見交換会では、授業の実施状況や動画コンテンツの薬学教育への有効性等について、活発な意見が出された。

講演会は、女性のキャリアパスの観点から、「らくらく服薬ゼリー」の開発者である福居篤子先生をお招きして、実施した。開発に至った視点や経緯、開発の苦労や喜びなどを女性ならではの視点を交えて講演して頂いた。本学の教員・学生だけでなく、他大学（名古屋市立大学、名城大学）からの多くの参加があり、大変盛会であった。

ワークショップは、名古屋大学高等教育研究センターの「優れた授業実践のための7つの原則」を基にして、本学部の現状に沿うように昨年アレンジした「5つの提案」に関連したテーマで2回実施した。昨年度は、第1回では、学生の能動的・主体的な学習を促すためには、教員としてどのような仕組みを作り、どのような心掛けで支援すればよいのかを主テーマとして議論し、第2回目で

は学生の支援に有効な学習コーチングの方法論を議論した。今年度は、第1回目のワークショップで、そのチェック（PDCAサイクルの「C」）に当たる「学習者支援に有効な情報共有と連携指導の実践とは ～現行アドバイザー制度の実質化にむけて～」をテーマに実施した。第2回は、「授業アンケートを教育改善に活用する ～授業改善アンケート実質化にむけて～」をテーマに実施した。

研究授業

「薬学教育における動画コンテンツの有効活用」研究授業は、11月24日2限「薬品物理化学Ⅱ」（2年生対象）（小川法子講師）にて行われ、多くの教員が参加した。そのうち18名の教員がアンケートに回答し、その後の情報交換会には11名が出席した。

情報交換会で出た意見は、以下の通りである。

- ・宿題を出すことが良いのか。
- ・理解度を図ることをどのように行ったら良いか。
- ・教室の前方に座っている学生は、プリントに書き込みをしている。
- ・ノートテイキングができていない学生が多い。
- ・授業を眺めているか、単に書いているだけ。
- ・学生が講義の時間中に理解しようとしていないのでは。
- ・医療とのつながりについての項目は？取り上げることは時間的に厳しい。
- ・アイコンタクトをもっと取った方が良いのではないか。
- ・下を向いている学生が多い。呼びかけをしたらどうか。

アンケートの回答は以下の通りである。

1. 授業の組み立てについて（クイズの実施や重要点の繰り返しなど）

- ・スライドを用いパネルへの書き込みを用いて詳しく説明を加えていく内容であった。教員が書き込みを行うため、学生の書くスピードもちょうど良くなり、ノートが取りやすいのではないかと思う。（4名）
- ・重要点や分かりにくいところを繰り返し、より分かりやすい授業であると思う。（4名）
- ・動画は視覚的に理論を学ぶのによいと思う。（4名）
- ・授業の内容の問題を出題し、確認を行っているのが良い。
- ・教科書は読んでおくよう指示し、講義中は使わない。
- ・非常に明快で分かりやすいが、タブレットの使い方（表示が重なって見づらい）は改善すべきと思われた。
- ・他の科目、講義などとの関連性を述べた方が良いと思う。
- ・図と数式との関連をわかりやすく示している。
- ・なぜなのかと理由をしっかり説明していたので、学生が丸暗記になるのを防げる講義であった。
- ・到達目標や意義について述べてあり、動機づけに良いと思った。
- ・重要な点をもう少し強調すると学生が分かりやすいのでは。

2. スピーチによる情報提供について（例：話のテンポ、明瞭さ、マイク音量など）

- ・声が明瞭でスピードも良く、聞きやすい。（13名）
- ・マイク音量は適切である。（4名）
- ・とても優れている。
- ・話のテンポは少し早いかもしれない。

3. 文字情報の提供について（例：板書やスクリーン文字の見やすさなど）

- ・スライドが大変見やすく良かった。（14名）
- ・スライドを送るときも学生に声掛けをして確認をしており良かった。
- ・ハンドアウトを配布しているので問題ないと思うが、スライド中の文字が小さいところがあった

ので大きくした方が良いと思う。（2名）

- ・前半相図で図に書き込まなければ理解しづらい内容だったので書き直していたが、ハンドアウトは書きやすいように同じ図がいくつかあっても良いように感じた。
- ・重要点は色を変えてスライド上に書き込まれた。
- ・最後尾の席からも読むことができる大きさであった。（2名）

4. 図画情報の提供について（例：PowerPointやハンドアウトの利用など）

- ・図が多く大変見やすい。（6名）
- ・動画の説明があり分かりやすい。（3名）
- ・PowerPoint と同内容のハンドアウトが配布された。（2名）
- ・カラフル過ぎず、シンプル過ぎず分かりやすくまとまっていた。
- ・スライド枚数が少なく要点をとらえていて、カラー表示で分かりやすい。

5. 学生の様子について（例：受講態度、ノートの取り方など）

- ・真面目にノートに書き込みをしており、静かである。（10名）
- ・数名寝ている学生がいたが、その他多くの学生はしっかり聞いていた。
- ・下を向いている学生が目立った。（3名）
- ・教員が書いた内容をメモする学生は多いが、口頭で話している内容を書き下している学生は少ない。（3名）
- ・わかりやすく説明しているが、学生の多くは下を向いているので、ハンドアウトに空欄を作って書き込ませるようなことをさせてはどうか。
- ・疲れているのか寝てしまっている学生が少数いたが、絶妙なタイミングで動画を見せることで授業に集中させていた。
- ・前を向いている学生が少ない。聞きながらメモができないのでは。

6. その他、設備面など問題点や総括的な感想について

- ・例題等をあげて、どのように式を応用するかなどがあった方がより学生が理解しやすいのではないか。
- ・非常にわかりやすい授業だと思う。これで理解

できないという学生がいたら、学生の側の問題である。

- ・設備に特に問題はなかった。
- ・全体的に分かりやすい授業であった。学生がどの程度理解したかを知りたい。
- ・このような基礎的な授業で双方向性の授業は可能か。
- ・動画が小ディスプレイに反映されるとなおいと思う。
- ・ディスプレイがつかなかった。(2名)
- ・学生一人当たりのスペースが少ない。
- ・手書き文字の解像度が低い。(設備的な問題)
- ・講義室が暖かめで眠くなってしまうのではと感じた。
- ・もう少し雑談や他の科目、これまで話してきたことの関連などを入れるといいのでは。
- ・全体的にスクリーン、配布資料、講義の内容等は学生にとって大変良い講義であると思う。

第1回ワークショップ

「学習者支援に有効な情報共有と連携指導の実践とは ～現行アドバイザー制度の実質化にむけて～」

第1回ワークショップは、以下の3点をテーマに、45名の教員が参加した。

- ①前年度第2回FD研修で取組み、実践したことの振り返り
 - ②国試対策、留年対策の観点からみた学生カルテ・ポートフォリオを媒介とした学生情報共有と指導のポイント考察
 - ③自学部学生指導における効果的な指導履歴の共有と連携指導方法の具体案考察（学生指導PDCAの仕組み化と実践方法の考察）
- 6グループ（7～8名/1グループ）に別れて、3テーマについて（25分/1テーマ）議論した。テーマ①とテーマ②についての議論を基に、テーマ③のプロダクト（2017年度へ向けての短期的、2020年度に向けての長期的プラン）を作成し、最後に全体で発表報告会及び総合討論を実施した。各グループのプロダクトは、以下の通りである。

グループ① ●アドバイザー制度の実質化③ アドバイザー制度実質化プラン作成 2017年度&2020年にむけて				
	課題	解決方向性	2017年 (すぐできること)	2020年 (理想)
情報管理	個人情報情報量	ポートフォリオ	現実的には不可能	可能
記入方法	紙ベースでは大変	データ化	現実的には不可能	可能
面談方法	面談時間の調整	オフィスアワーの活用	可能	可能
フォロー 学年連携		担当教員とアドバイザーの連携	可能	可能
フォロー 科目連携		担当教員とアドバイザーの連携	可能	可能
教員自身の 自己研鑽・研修		FDWS参加	可能	可能

●アドバイザー制度の実質化③ アドバイザー制度実質化プラン作成 2017年度&2020年にむけて				
G2	課題	解決方向性	2017年 (すぐできること)	2020年 (理想)
情報管理	情報が少ない。 情報開示が十分でない。	講義の欠け、得意苦手 課題、入試形式、部活動、 出身高校、志望動機、進 路希望、生活環境の基 本情報などを収集する。	システム化の基礎情報を 集める。	システムの導入を完成さ せる。
記入方法	システムがない。	Web Campusなどを利 用する。システム化を行 う。	システム化の基礎情報を 集める。	システムの導入を完成さ せる。
面談方法	回数が足りない。	回数を増やす。面談の きっかけをつくる。 学生にアドバイザー制 度を周知する。	回数を増やす。	教員が随時呼び出せる ようにする。
フォロー 学年連携	講座配属とのつながり がうまくいかない。	講座配属時に成績など の情報カルテの申し送り をする。	講座配属時に成績など の情報カルテの申し送り をする。	情報をシステム化して 教員が参考にできるように する。
フォロー 科目連携	教員間の講義内容の 把握が十分でないなど により、学生への指導 が十分でない。	教員間の講義内容の 把握ができるように する。	教員間の講義内容の 把握ができるように する。	情報をシステム化して 教員が参考にできるように する。
教員自身の 自己研鑽・研修	教員のコーチングの 技術が十分である。	FDに積極的に参加す る。コーチングの技術 を身につける。	FDに積極的に参加す る。	コーチングの技術を身 につける。

●アドバイザー制度の実質化③ アドバイザー制度実質化プラン作成 2017年度&2020年にむけて				
G3	課題	解決方向性	2017年 (すぐできること)	2020年 (理想)
情報管理	・学生の情報が少ない (入試、試験結果、生 活態度、病歴など)	・ポートフォリオを作る	・ポートフォリオ作成の ためのワーキンググル ープを作る ・予習の獲得	・2020年では遅すぎる ・2018年くらいには実 施できるようにする
記入方法				
面談方法	・来ない学生がいる ・教員一人当たりの負 担が大きい	・敷居を下げる ・担当教員でなく、担 当講座にする	・お菓子代、飲み会代 のフォロー	
フォロー 学年連携	教員間の情報共有が できていない	共有する機会を設ける	教務委員会2?の実 施	
フォロー 科目連携				
教員自身の 自己研鑽・研修				

●アドバイザー制度の実質化③ アドバイザー制度実質化プラン作成 2017年度&2020年にむけて G 4				
4 G	課題	解決 方向性	2017年 (すぐできること)	2020年 (理想)
情報管理	情報不足 機密情報の保持 教員のモラル	データベースの 構築	手書きのカルテ 講習会の開催	ポートフォリオの 作成
記入方法	時間・顔と名前 の一致	写真つき学生専 用ノート	専用スペースに 設置	どこからでも手書き で記入できる。
面談方法	呼び出して来 ないことがある	以前やっていた 三者面談	事前に学生にア ンケートを提出さ せる	年数回情報に基 づいて面談
フォロー 学年連携	4年から研究室 配属での指導の 連続性	アドバイザーが 変更になるときに 引き継ぐ	引き継ぎを実施す る。	ポートフォリオで 成績などを把握 できるようにする
フォロー 科目連携	学生ごとの理解 の程度がわかりづ い。	小テストなどの 情報の共有	苦手科目の学 生のマーキング	小テストで理解度 を把握して理解度 が低い部分を重点 的に再度説明する
教員自身の 自己研鑽・研修	学生の効果的な 指導方法の知識 不足	勉強する。	コーチングにつ いて詳しく知る	コーチングセミ ナーに参加する

●アドバイザー制度の実質化③ アドバイザー制度実質化プラン作成 2017年度&2020年にむけて G-5				
G-5	課題	解決 方向性	2017年 (すぐできること)	2020年 (理想)
情報管理	管理する情報がない。		基本的な個人情報 の開示・共有する。	高校時代の成績・人 物像などの情報も開 示する。
記入方法	管理する情報がない。		情報入力フォーマ ットを作る。→共有 できるようにする。	学生本人からの情報 も反映させる。
面談方法	面談のための個室 がない。	学生が来やすい環 境作りをする。		面談のために各教 員に個室をつくる。学 生と飲み会などの機 会を設ける（経費！）。
フォロー 学年連携			1年からアドバイザー 制度つける。配属講 座への引継ぎ。	
フォロー 科目連携	実習での積極性・成 績の情報共有がない。		アドバイザーに主担 当・副担当つける。	
教員自身の 自己研鑽・研修	ほめる根拠となる情報 がない。成績表が写 りづらい。アドバイ ザーにより差があ る。		学年別・さらに細かい 情報のあった成績表 を作る。アドバイ ザーのための研 修会を行う。	親との面談

●アドバイザー制度の実質化③ アドバイザー制度実質化プラン作成 2017年度&2020年にむけて G6				
G6	課題	解決 方向性	2017年 (すぐできること)	2020年 (理想)
情報管理	・システム自体が ない ・個人情報の管理	ネットワーク上な どで共通で見れる システムの構築	実習用のものを 活用	・システムの構築 ・セキュリティ
記入方法	・分類の仕方 ・ポジティブ・ネガ ティブな情報より も事実を			
面談方法	・教員間の対応の 差			薬学専門の教育 センターの設置
フォロー 学年連携			メールによる 情報の共有	
フォロー 科目連携				
教員自身の 自己研鑽・研修			カウンセラーにカ ウンセリングの仕 方を教授してもら う	教育センターの先 生に教育の方法 を教授してもらう

本ワークショップは、次のように総括された。

●良かった点

1) アドバイザー制度実質化プランを短期と中期（2017年度と2020年度）で作成したことですぐ取り組むべきことの明確化が進んだ。また「①情報管理、②記入方法、③面談方法、④学年連携フォロー、⑤科目連携フォロー、⑥教員自身の自己

研鑽・研修」という着眼点も設定し、これまで実施できたことを踏まえて、必要な to do を洗い出すことには一定の効果があり、議論が活性化し、具体的な対応方法検討に至った。

2) チーム編成を工夫し、教員間の問題意識の共有や知見の交換が深まった。また、個人からチームで対応する必要性を喚起することにも一定の成果があった。

3) 前回の実施内容を踏まえ、かつ基調講演での事前インプットもあったのでチーム内での議論が比較的スムーズに進んだ。

●改善が求められる点

1) 検討した施策の実行において「学部で施策を決定し一定期間全教員で実施する」など、実践・定着・改善のサイクルを回すための最初の一步を学部決定で進める必要があると感じた。参加教員からも考察、アイデア創出のフェーズから「実践」「小さく PDCA を回してみる」といった施策の確定と実践を求める声が強いのがある。また、ワークショップ実施で抽出された問題意識や課題に対する改善アイデアが施策として実行されるためには「時間がかかる」との認識を受講者の多くが抱いていた。早期の学部決定による施策の実践が求められる。

2) 在学生の視点共有として、「教員間の経験と推測に基づく考察と同時に、対象である学生を意識や行動の把握と確認を行う機会が必要」また「在学生同士の学び合いや教員と在学生によるチームによる在学生の学習支援が必要」などの意見があった。これまでのワークショップでテーマとして考察した内容を踏まえたポートフォリオを核とした連携指導において、学生自身がどのようなニーズを持ち合わせているか、並行して情報収集する必要がある。

第2回ワークショップ

「授業改善アンケートの実質化にむけて」

第2回ワークショップは、以下の3点をテーマに、36名の教員が参加した。

①授業改善アンケートの実施目的の再確認、分析観点、活用方法の考察

②効果的な情報収集にむけての施策検討

③アンケート結果の具体的な活用方法の考察

本学部では、毎学期末に全講義科目について授業アンケートを実施している。本ワークショップに先立ち、本学部学生（2～4 年生）に対して、授業アンケートに対する意識調査を実施したので、まず、その結果が参加者に報告された。アンケート結果を以下に示すが、表中の A～D は、それぞれ「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」、「どちらかと言えばそう思わない」、「そう思わない」の回答を示している。

問 1．授業アンケートには、よく考えて回答している。

	A	B	C	D
2 年生	34.5%	43.7%	14.1%	7.7%
3 年生	36.0%	40.5%	13.5%	9.0%
4 年生	21.6%	43.1%	19.6%	15.7%

問 2．授業アンケートには、正直に回答している。

	A	B	C	D
2 年生	46.5%	40.8%	7.0%	5.6%
3 年生	41.4%	45.9%	10.8%	1.8%
4 年生	40.2%	41.2%	11.8%	5.9%

問 3．授業アンケートの回答には、教員への好き・嫌いの感情が含まれている。

	A	B	C	D
2 年生	18.3%	28.2%	23.2%	30.3%
3 年生	21.6%	33.3%	26.1%	18.9%
4 年生	11.8%	33.3%	31.4%	23.5%

問 4．授業アンケートに回答するのは面倒なので、ない方がよい。

	A	B	C	D
2 年生	21.1%	27.5%	36.6%	14.8%
3 年生	24.3%	33.3%	26.1%	14.4%
4 年生	34.3%	36.3%	25.5%	2.9%

問 5．授業アンケートに回答すれば、薬学部の講義は改善されると思う。

	A	B	C	D
2 年生	6.3%	21.8%	39.4%	32.4%

3 年生	13.5%	24.3%	33.3%	28.8%
4 年生	3.9%	18.6%	40.2%	37.3%

問 6．教員は、授業アンケートの結果を次年度の講義に反映させていると思う。

	A	B	C	D
2 年生	6.3%	21.1%	45.1%	26.8%
3 年生	9.9%	29.7%	30.6%	28.8%
4 年生	2.0%	17.6%	50.0%	30.4%

問 7．授業アンケートは、これまで通り匿名の方がよい。

	A	B	C	D
2 年生	83.1%	13.4%	1.4%	1.4%
3 年生	71.2%	25.2%	3.6%	0%
4 年生	74.5%	20.6%	2.9%	2.0%

問 8．授業アンケートは、これまで通り全ての講義科目で実施した方がよい。

	A	B	C	D
2 年生	26.8%	34.5%	27.5%	10.6%
3 年生	31.5%	35.1%	18.0%	15.3%
4 年生	14.7%	26.5%	33.3%	25.5%

問 9．授業アンケートは、講義だけでなく、実習・演習科目でも実施した方がよい。

	A	B	C	D
2 年生	15.5%	23.2%	30.3%	29.6%
3 年生	12.6%	25.2%	35.1%	27.0%
4 年生	7.8%	12.7%	38.2%	41.2%

問 10．各科目の授業アンケートの集計結果を知りたい。

	A	B	C	D
2 年生	38.0%	18.3%	19.0%	23.9%
3 年生	38.7%	26.1%	16.2%	18.9%
4 年生	24.5%	21.6%	20.6%	32.4%

問 11．授業アンケートの項目は、数が多すぎる。

	A	B	C	D
2 年生	16.2%	11.3%	47.9%	22.5%
3 年生	17.1%	25.2%	40.5%	17.1%

4年生	16.7%	28.4%	39.2%	13.7%
-----	-------	-------	-------	-------

問12. 授業アンケートの項目の中には、役に立ちそうにないものがある。

	A	B	C	D
2年生	21.1%	23.9%	36.6%	16.2%
3年生	18.0%	36.9%	34.2%	10.8%
4年生	20.6%	39.2%	32.4%	6.9%

問13. 自由記述欄には、書くことがないので、ほとんど書かない。

	A	B	C	D
2年生	57.0%	25.4%	12.0%	3.5%
3年生	55.9%	26.1%	10.8%	7.2%
4年生	68.6%	20.6%	7.8%	2.0%

問14. 自由記述欄には、個人を特定されるのが心配で、書きたいことを書けない。

	A	B	C	D
2年生	15.5%	15.5%	35.9%	30.3%
3年生	18.0%	22.5%	31.5%	27.9%
4年生	11.8%	16.7%	29.4%	40.2%

問15. 自由記述欄には、小さなことでも書くことを心掛けている。

	A	B	C	D
2年生	4.2%	10.6%	26.8%	52.1%
3年生	8.1%	9.9%	28.8%	50.5%
4年生	4.9%	2.9%	21.6%	64.7%

(回答数：2年生142、3年生111、4年生102)

この結果を踏まえて、6グループ(6名/1グループ)に別れて、3テーマについて(テーマ①40分、テーマ②25分、テーマ③20分)議論した。テーマごとにプロダクトを作成し、最後に全体で発表報告会及び総合討論を実施した。各グループのプロダクトは、以下の通りである。

グループ1

グループワーク①

2

●実施目的、アンケート実施項目、質問方法、分析観点の考察

検討テーマ	チーム名
実施目的	目的と目標 目的：授業改善 目標：自分の意義のスタンス・考えを学生に伝える。(相互理解)
アンケート実施項目案	カテゴリと項目案 1. 授業参加について 2. 授業手法について 3. 授業内容について 4. 授業運営について 5. 授業全体を通して 6. 自由回答欄
質問方法	設問例 ・あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？ ・教員の話すスピードは適切でしたか？ ・教員の声の大きさは適切でしたか？ ・教科書等の資料は理解に役立ちましたか？ ・講義の内容はシラバスの内容に沿っていましたか？ ・がキレムツリの中で位置づけは適切でしたか？ ・コアガリの到達目標への到達に役立ちましたか？ ・この講義に熱心を持っていましたか？ ・教員は熱心に講義をしていましたか？ ・この科目で求められている段階まで十分に理解できましたか？
分析観点・方法	優先事項 分析方法 現状維持

グループワーク②

3

●学生への説明方法と質の高い回答・回答率向上のポイント

検討テーマ	チーム名
学生の取り組みを促す説明機会・方法とは？	最初の講義で前年度のアンケート結果をふまえて方針・改善点について説明する。 アンケートにあったものの変更しない点も説明。 同様の内容を前年度の学生にも提示することでフィードバックする。 ex. (良) 練習問題を入れて欲しい。 (悪) 英語の全訳が欲しい。
質の高い回答を促す設問とは？	学生に業字部のシステムを理解させる項目を設定する(シラバス、コアカリ等)。 自由記述欄を設定し、講義の中で一番興味を持った項目を聞く。
回答率向上の仕掛けとは？	アンケートの重要性を話す。 アンケートによって改善した点や変更していない点を公開することで、教員がアンケートを参考に行っていることを学生に知ってもらう。

グループワーク③

4

●仕組み化と実践方法の考察

検討テーマ	チーム名
授業アンケート結果を活かす仕組み案	P D C A フレームとサイクル アンケートによって改善した点や変更していない点を公開する。 (スコアは非公開)
改善活動の実践	①担当教員の 全体結果の活用 ②学部全体 ①アンケートによって改善した点や変更していない点を公開する。 ②授業内容についてのアンケート結果に問題がある場合は教務委員会で協議する(カリキュラムの変更等)。

グループ2

グループワーク①

2

●実施目的、アンケート実施項目、質問方法、分析観点の考察

検討テーマ	チーム名：②グループ
実施目的	目的と目標 成績下位層の学力向上・留年生の減少
アンケート実施項目案	カテゴリ ①属性 ②自己評価・(授業への取り組み方) ③方法の評価 ④授業への総合評価
質問方法	時期：成績発表後 対象：全員 設問例 ①本試験で合格、再試験で合格、不合格/留年生か否か ②講義のなかでの優先順位/本試験で受かる気があったか ③理解しやすかったか/スピード資料 ④将来に(国試ではなく薬剤師として)役立つ講義だったのか/興味をもったか
分析観点・方法	優先事項 分析方法 本試験合格者と再試験対象者での対比を行う 再試験対象者の問題点の洗い出す (学生の熱意？勉強の仕方？教員の授業方法)

グループワーク②

3

●学生への説明方法と質の高い回答・回答率向上のポイント

検討テーマ	チーム名 ②グループ
学生の取り組みを促す説明機会・方法とは？	説明機会：初回講義時 方法：前年度の結果と改善した点を示す
質の高い回答を促す設問とは？	理解できなかった点を抽出する ・自由記述 ・科目ごと・・・教員の考える理解しにくい点をいくつか挙げて選択してもらう（「その他」の項目も入れ自由記述） 理解できなかった理由を明らかにする（選択） ・聞いていなかった/スピードが速かった/説明が分らなかった/授業資料・スライドが分かりにくい/時間が足りなかった等
回答率向上の仕掛けとは？	本試験終了時に配布し、成績配布時にアドバイザーに提出

グループワーク③

4

●仕組み化と実践方法の考察

検討テーマ	チーム名 ②グループ
授業アンケート結果を活かす仕組み案	P D C A フレームとサイクル P：目的設定 D：初回講義で説明 C：アンケート結果の分析 A：スライド・授業内容の改善
改善活動の実践	①担当教員の全体結果の活用 ②学部全体 ・同一分野の教員間で研究会(講義見学)、内容の重なる部分で理解しにくい点を共有し、フォローしてもらう。 ・他大学の授業を見学する。

グループ 3

グループワーク①

2

●実施目的、アンケート実施項目、質問方法、分析観点の考察

検討テーマ	チーム名 ③
実施目的	目的と目標 授業改善(教員の問題点改善も含めて)。次年度の学生に有益になるように。
アンケート実施項目案	カテゴリーと項目案 出席に関する質問は削除。予習復習の項目、熱心に勉強したかの項目を分ける。カテゴリー(学生、教員、授業内容)に分ける。
質問方法	設問例 マーク方式(どちらともいえないの選択肢を削除して、4択にする) および記述。無記名形式。 現状アンケートを利用。 記述欄は「その他」にし、自由に意見を書けるようにする。
分析観点・方法	優先事項 分析手法 マーク形式のアンケート項目の点数化、平均値をとる。

グループワーク②

3

●学生への説明方法と質の高い回答・回答率向上のポイント

検討テーマ	チーム名
学生の取り組みを促す説明機会・方法とは？	学年主任の先生がアンケートの目的、内容等について各学年に説明する機会を設ける。
質の高い回答を促す設問とは？	次年度の学生に有益になるような、意見を書いてくださいと促す。
回答率向上の仕掛けとは？	真剣にアンケートを書いてくれる学生のデータだけの方が、信頼性が高い。回収率は気にしない！ 事務係後からでも提出できるように、回収ボックスを設置。

グループワーク③

4

●仕組み化と実践方法の考察

検討テーマ	チーム名
授業アンケート結果を活かす仕組み案	P D C A フレームとサイクル Webキャンパス等にアンケート結果を載せて学生にも開示。 現状と同様にアンケート結果を冊子にして各教員に配布。
改善活動の実践	①担当教員の全体結果の活用 ②学部全体 ①各担当教員にアンケート結果をフィードバックして、今後の授業に活用。 ②何年に1度かアンケート結果についてFD委員会を検討してもらう。

グループ 4

グループワーク①

2

●実施目的、アンケート実施項目、質問方法、分析観点の考察

検討テーマ	チーム名 ④グループ
実施目的	目的と目標 ・授業の改善、「良い授業」への改善(良い授業を考える)、「学生とのコミュニケーション」・授業改善し、学生のモチベーションを上げる。「学生からの意見を知って授業改善をはかる」 →次年度の改善(期末にアンケートを行うため、次年度への改善になってしまう) ⇒期途中でアンケートを行って、学生の意見を反映させることができれば良いのでは(他学部では、毎回アンケートを取るシステムがある) ・教授鑑賞(学生と教員との認識度の差)の理解 ・アンケートのスコアが高得点なら良い授業？
アンケート実施項目案	カテゴリーと項目案 ・現行のアンケート→不要項目(出席、学習意欲、教員の熱意) ・学生の授業科目に対する関心度、興味 ・姿勢、口調、熱意、喚起、プレゼン ・項目(内容・数)、難易度、手順、内容・成果、満足
質問方法	設問例 ・現行のアンケートは表面的(声や字の大きさなど)なので内容(SBO)に関する項目を追加 ・この授業への関心が高まったか ・記述式で回答(良かった点、悪かった点) ・授業の目的を達成できたか ・授業の1回あたりの情報量は適切か
分析観点・方法	優先事項 分析手法 ・アンケート回収を増やす ・ポートフォリオ、クリックの導入

グループワーク②

3

●学生への説明方法と質の高い回答・回答率向上のポイント

検討テーマ	チーム名 ④グループ
学生の取り組みを促す説明機会・方法とは？	・アンケートの目的をしっかりと説明する ・学生へのフィードバック ・回答時間を十分に確保する
質の高い回答を促す設問とは？	・記名式にする 具体例 ・講義で良かった点、悪かった点を1つずつ述べよ
回答率向上の仕掛けとは？	・学生へアンケートのメリットを示す ・学部全体に反映するため、次年度での改善でもメリット大 ・担当教員以外がアンケートを回収する

グループワーク③

4

●仕組み化と実践方法の考察

検討テーマ	チーム名 ④グループ
授業アンケート結果を活かす仕組み案	P D C A フレームとサイクル ・HPに授業スライド、テストを載せる。中間テストを行う ・改善の効果がわかるようなサイクルの作成が必要 ・難易度の調整に生かしている ・質問に来る学生からの意見を聞いて改善に生かしている ・アンケート表面的な箇所(スライド、スピード等)は次年度に修正 ・結果から、授業内容の変更(国家試験内容を入れる、レポートからテストへの変更) ・記述式の意見を生かして改善を図っている ・改善を行っても、その効果が見にくい
改善活動の実践	①担当教員の全体結果の活用 ②学部全体 ・他の教科の授業を参考にする ・学生の成績とアンケート結果のリンク ・改善して良かった例をまとめて共有する ・学年毎の特徴をとらえて、学部で共有し活用する

グループ 5

グループワーク①

2

●実施目的、アンケート実施項目、質問方法、分析観点の考察

検討テーマ	チーム名	⑤
実施目的	目的と目標	授業改善、フィードバックを明確する、学生が理解できる授業 短期的 中長期的
アンケート実施項目案	カテゴリーと項目案	聞きとりやすさ、理解度など簡単な内容 最後にフィードバックできているかどうか 要望と質問の自由記載
質問方法	訪問例	聞きやすさ 理解しやすさ フィードバックできているか 要望・質問の自由記載 (小テストの内容：理解度チェック)
分析観点・方法	優先事項 分析方法	科目毎、毎回の授業後、 アルプを用いたオンライン法で毎回とる方法 学生にも結果を公開する 学期末 紙、マークシート 教員、学生を対象

グループワーク②

3

●学生への説明方法と質の高い回答・回答率向上のポイント

検討テーマ	チーム名	⑤
学生の取り組みを促す説明機会・方法とは？		目的を説明することが必要 目的の視覚化、明確化 内容の周知のため繰り返し説明 方法としてスマホの利用
質の高い回答を促す設問とは？		質問数を絞る 単純な内容 答えやすいものにする 次回必ずフィードバックする 質問しやすい環境づくり 記入時間を取る
回答率向上のグループワークとは？		結果や質問に対するフィードバックをしっかりと行う

●仕組み化と実践方法の考察

検討テーマ	チーム名	⑤
授業アンケート結果を活かす仕組み案	P D C A フレームとサイクル	中長期アンケートをしっかりと内容のものを構築する必要がある フィードバックしていくことがPDCA
改善活動の実践	①担当教員の 全体結果の活用 ②学部全体	①短期としてのスマホ利用、中長期的なものを両方を解析 ②全体結果からの議論が必要 結果を出しっぱなしはもったいない

グループ 6

グループワーク①

2

●実施目的、アンケート実施項目、質問方法、分析観点の考察

検討テーマ	チーム名	グループ⑥
実施目的	目的と目標	1) 授業内容、方法の改善 2) カリキュラム改定に活用、SBOの移動（割り振り変更）
アンケート実施項目案	カテゴリーと項目案	カテゴリー：授業参加、授業手法、授業内容（日進の項目を利用） 教員による自由設問、自由記述欄の活用
質問方法	(訪問例) 調査方法	マークシート、匿名 アンケート回答時間を設ける。補講日、時間等を利用する。 実習・演習でも行う 自由設問欄の周知徹底
分析観点・方法	優先事項 分析方法	1) 授業の改善 2) カリキュラムの改善 3) より詳細な解析

グループワーク②

3

●学生への説明方法と質の高い回答・回答率向上のポイント

検討テーマ	チーム名	グループ⑥
学生の取り組みを促す説明機会・方法とは？		1) 初回授業で趣旨説明 昨年度のアンケート結果を示し、変更点、改善点を説明する。
質の高い回答を促す設問とは？		1) PDCAサイクルを回す（繰り返し）。 2) 教員による自由設問を一つは入れる。 3) 何ができるようになったか？
回答率向上の仕掛けとは？		1) 自由記述に関しては、別用紙を準備する。 1 2 回目マークシート 1 3 回目自由記述

グループワーク③

4

●仕組み化と実践方法の考察

検討テーマ	チーム名	グループ⑥
授業アンケート結果を活かす仕組み案	P D C A フレームとサイクル	1) PDCA 授業アンケートに対するコメントに「昨年度からの変更点、改善点」を記載する。 テンプレートを作成し、冊子化・情報共有
改善活動の実践	①担当教員の 全体結果の活用 ②学部全体	改善例の冊子化、情報共有。

本ワークショップは、次のように総括された。

●良かった点

- 1) 現行の授業アンケートの問題点を洗い出し、授業改善に活用するための PDCA サイクルの回し方について、一定の方向性が共有できた。
- 2) 身近なテーマであったため、議論に入りやすく、活発な意見が出された。

●改善が求められる点

- 1) 本ワークショップで出された意見を反映させた授業アンケートの項目、実施時期の見直しを実施する必要がある。
- 2) 授業アンケートを授業改善の PDCA サイクルを回すための強力な駆動力とする仕組み作りが必要である。

【総括】

今年度も薬学部 FD 活動として、1 回の研究授業、1 回の講演会、2 回のワークショップを実施し、それぞれに多くの教員が積極的に参加した。特に、ワークショップにはほぼ全ての教員の参加が得られ、1 回目は前年度のテーマの実施についてチェックする目的で、2 回目はカリキュラム改善の一環として授業アンケートの改善を目的に実施した。ディスカッションと最後の総合討論は、大

いに盛り上がった。

ワークショップを通じて、学部教員が抱いている問題意識や危機感に加え、その改善に対する意見の共有に進展があったと考えられる。薬学部 FD 委員会では、これらの取組みを通じて、薬学部の

全入学生に対して、多様な視点から高度な医療人専門教育を推進するサポートを進めていく。